史跡 処女塚古墳

昭和60年

神戸市教育委員会

表紙題字は神戸市長 宮崎辰雄
表紙写真は昭和54年１月撮影

序　　文

処女塚古墳は、古く万葉の時代から悲恋の主人公の墓として語り伝えられている有名な古墳であります。

大正11年に国の史跡に指定されましたが、近年になって墳丘の傷みが激しくなってきたため、昭和54年度から国の補助金を得て整備事業にとりかかりました。

整備は、築造当時の姿にできるだけ近づけたいと努力いたしましたが、墳丘の流失が著しく復元整備をすることはできませんでした。

しかし、調査の結果から神戸市内唯一の前方後方墳であることがわかったことは、大きな成果といえましょう。

市街地の中の遺跡として整備が完了しました史跡処女塚古墳を、一人でも多くの方々に活用していただければ幸いです。

終りに、この事業のために多大なご支援を賜った文化庁、奈良国立文化財研究所、ご指導をいただきました諸先生をはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

昭和60年３月

神戸市教育委員会

教育長　山本　治郎

整備事業概要

所 在 地　兵庫県神戸市東灘区御影塚町２丁目10
整備期間　着手　昭和54年４月１日　完了　昭和60年３月31日
総 工 費　６０４０万円

整備事業は、文化庁、奈良国立文化財研究所、史跡処女塚古墳整備委員会の指導により、神戸市が実施した。発掘調査は、神戸市教育委員会社会教育部文化財課が行ない、整備工事に関する設計、監督は、神戸市住宅局営繕部学校建設課が担当した。

整備体制

指導・監督

文化庁文化財保護部記念物課
主任文化財調査官　牛川　喜幸
文化財調査官　高瀬　要一（昭和54、55、56、57年度）
文化財調査官　加藤　允彦（昭和58、59年度）

史跡　処女塚古墳整備委員

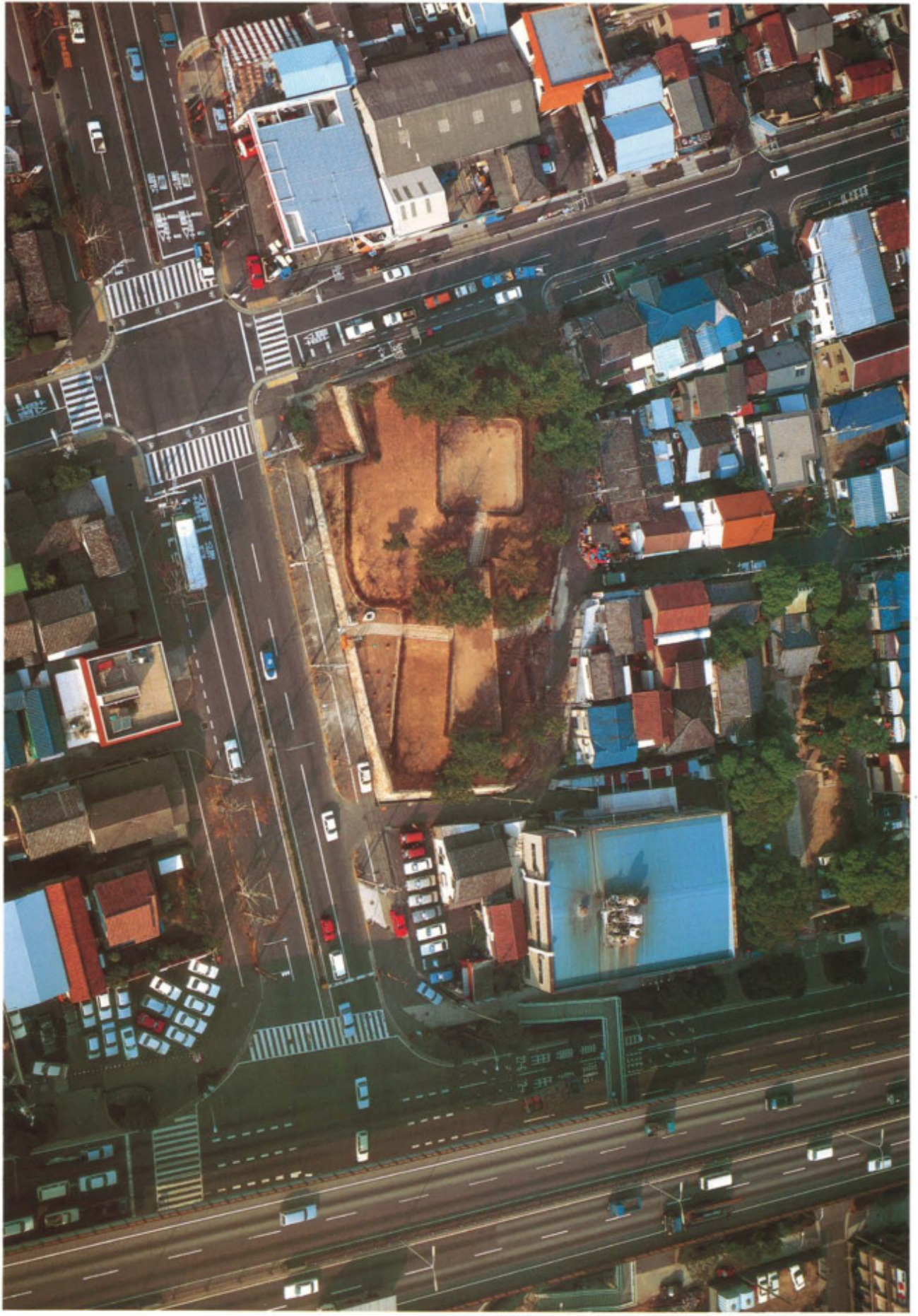
神戸大学名誉教授　野地　脩左
京都大学名誉教授　小林　行雄
神戸市立博物館副館長　檀上　重光
奈良国立文化財研究所
平城宮跡発掘調査部
考古第一調査室長　工楽　善通
奈良国立文化財研究所
平城宮跡発掘調査部
計測修景調査室長　田中　哲雄

整備工事設計・監督

神戸市住宅局営繕部
学校建設課長　勝原　正彦（昭和54、55年度）
杉下　英治（昭和56、57、58年度）
下河内　晃（昭和59年度）
学校建設課土木係長　丸尾　修
学校建設課土木係　山下　和秋

事務局

教 育 長　安好　匠（昭和54、55、56年度）
山本　治郎（昭和57、58、59年度）
社会教育部長　畑岡　瑞夫（昭和54、55、56、57年度）
太田　修治（昭和58、59年度）
文化課長　安田　博司（昭和54、55、56年度）
文化財課長　八尾　明（昭和57、58年度）
増川　修三（昭和59年度）
文化財係長　藤井　建治（昭和54年度）
主査　喜谷　美宣（昭和54年度）
埋蔵文化財係長　喜谷　美宣（昭和55年度）
奥田　哲通（昭和56、57、58、59年度）
調査担当者　口野　博史（昭和54年度）、西岡　巧次（昭和54年度）
千種　浩（昭和56、57年度）
事務担当者　前田　真一（昭和54年度）、中村　善則（昭和54年度）
丸山　潔（昭和55、56年度）、渡辺　伸行（昭和57年度）、宮本　郁雄（昭和58年度）
福田　信安（昭和58年度）、沢田　剛（昭和59年度）、菅本　宏明（昭和59年度）



整備後の処女塚古墳(昭和60年１月)

処女塚古墳と東・西求女塚古墳

処女塚古墳は、石屋川によって形成された扇状地上に造られた古墳である。

古くから処女塚古墳は、東灘区住吉宮町一丁目に所在する東求女塚古墳（全長約80m）と灘区都通三丁目に所在する西求女塚古墳（全長約100m）にまつわる悲恋の伝説が言い伝えられている。この伝説は、二人の男性が一人の女性を慕ったが、女性は身を処しかねて海に身を投じた。そこで二人の男性も悲しんで後を追ったため、女性の墓を中にして、男性の墓を造ったという物語である。処女塚古墳に前方部を向けて造られた二基の古墳を見た古代の人々はそこに何らかの意味を見出そうとしたものであろう。

『古の小竹田壮士の妻問いし菟原処女の奥津城ぞこれ』　万葉集―田辺福麿

処女塚古墳位置図

東求女塚古墳(昭和59年４月南から)

西求女塚古墳(昭和59年４月南から)

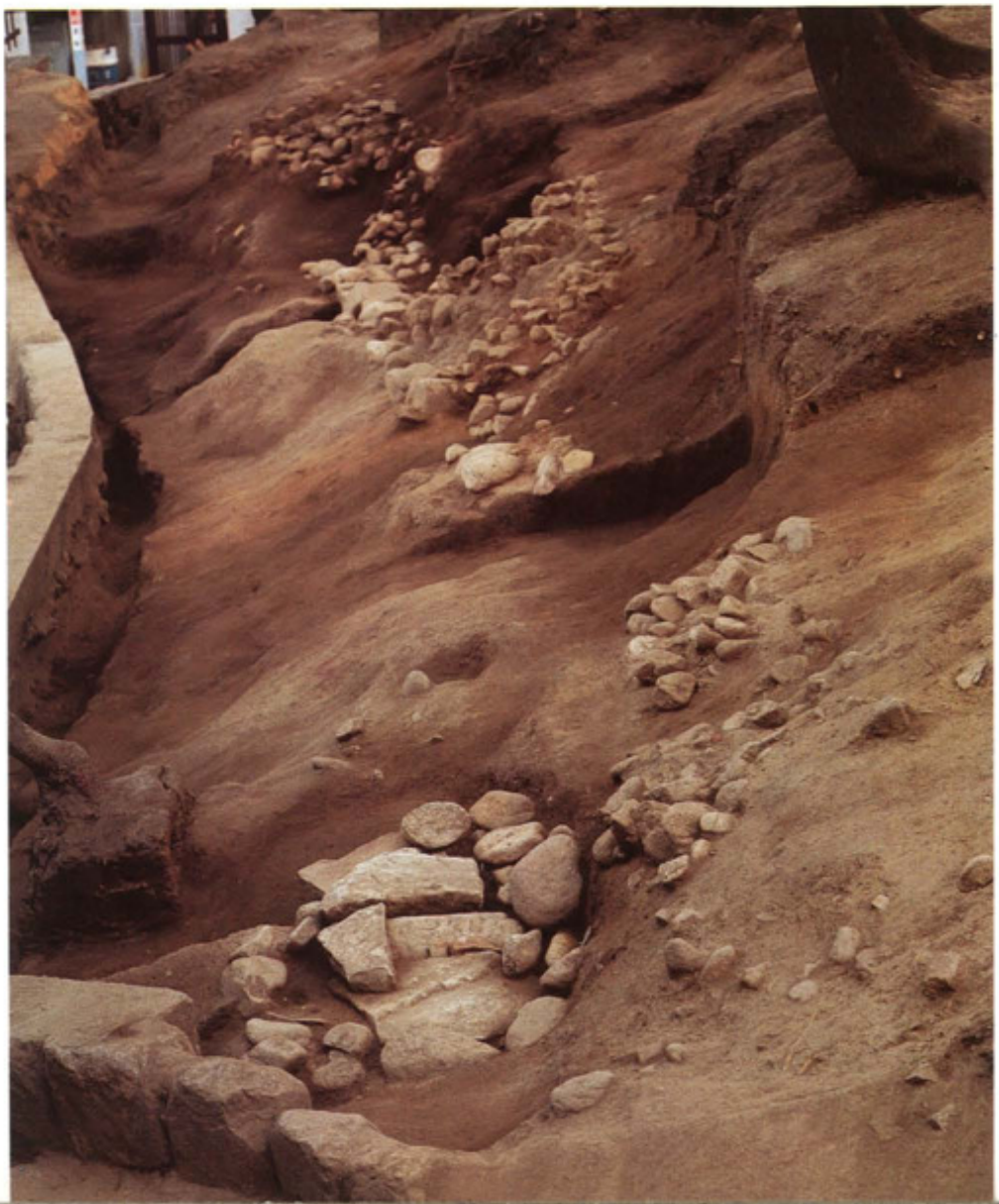
前方部

前方部は、ほぼ全域を発掘調査したが、墳丘の流失が著しいうえに攪乱が多く原形をとどめている部分は少なかった。

今回の調査で、東側斜面上段の葺石と小段、東側斜面および西側斜面の下段の葺石の一部が確認された。

これらの調査結果から、前方部は二段築成で、幅32メートル、高さ4メートルであったことがわかった。

また、くびれ部に近い前方部東側斜面上段の小段で、箱式石棺1基が検出された。この石棺は、古墳築造後埋葬したと考えられ、上段の斜面を一部切り込んで造られていた。棺内からの出土遺物はなかったが、蓋石直上から滑石製勾玉1個が出土した。また、墳丘上から壺形土器片が出土した。



東斜面上段と小段
（手前は箱式石棺）

箱式石棺(北から)

東側下段(南から)

西側下段(北から)

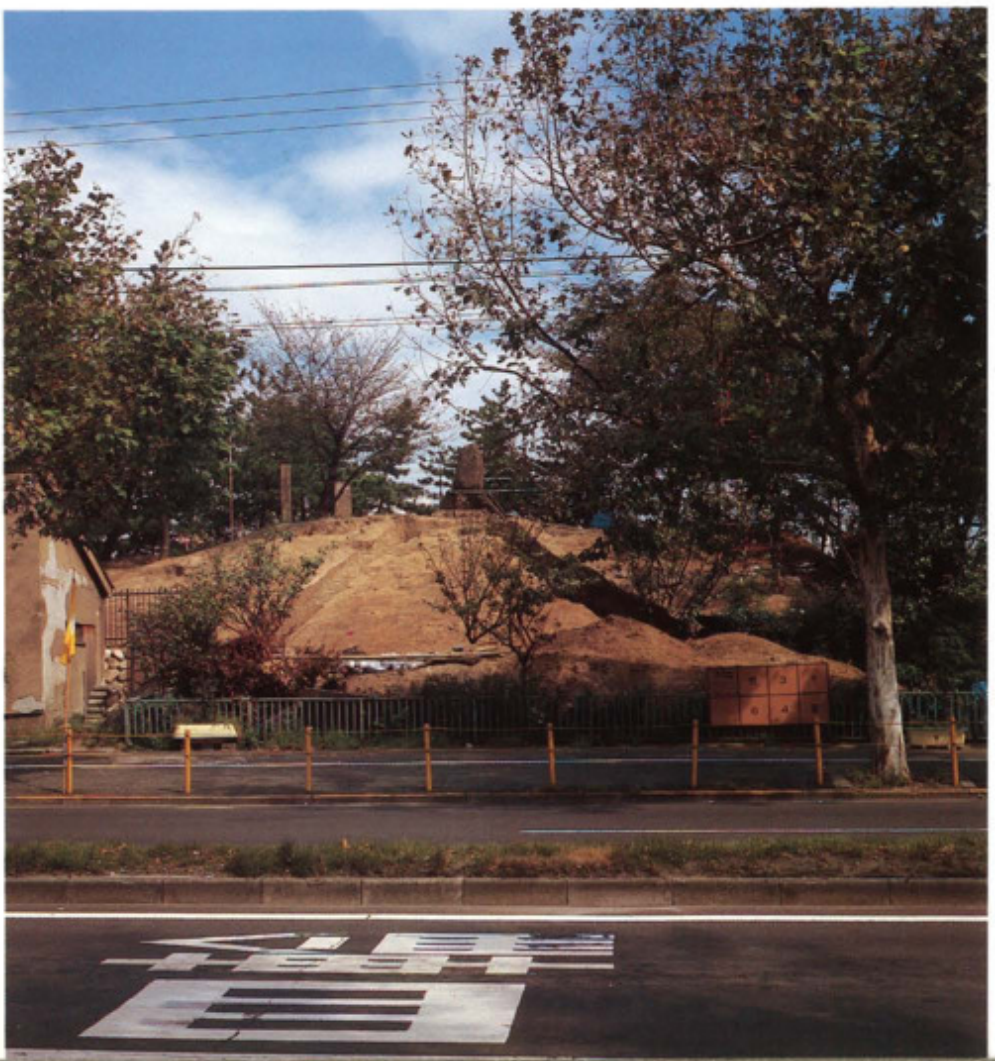
後方部

後方部も前方部と同様に、墳丘の流失、攪乱が著しく原形を残している部分は、ほとんどなかった。特に北側、東側は周囲の道路によって大きく削り取られている。下段までの調査が可能であったのは、西側だけであった。ここで確認された下段の葺石は、前方部ほど明瞭ではなかったが、墳丘の裾が直線的に検出されたため、前方後方墳であると判断した。

また、西側斜面中段の葺石は、検出できなかったが、斜面に傾斜変換するところが認められ、墳丘の断割り調査でも盛土の方法が変わっているなど小段が存在していたと考えられた。そのため、後方部は、三段築成であったと考えられる。

後方部墳頂南側では、埋葬施設の一部と考えられる石組みが検出されたが、どのような構造をしたものかは、確認できなかった。

遺物は、墳頂から鼓形器台が出土した。また、くびれ部の東西両下段から壺形土器が出土した。



6　西側斜面(西から)

西側下段(北から)

墳頂(南から)

墳頂石組(南から)

整備前（昭和55年８月）

整備中（昭和59年７月）

史跡処女塚古墳

昭和60年３月１日　印刷
昭和60年３月31日　発行
昭和61年９月30日　第２刷発行

編集・発行　神戸市教育委員会
神戸市中央区加納町６丁目５番１号
印　刷　神戸オール出版印刷株式会社
神戸市兵庫区新開地４丁目６－19

神戸市広報印刷物登録 昭和61年度第177号（A-6版）